

1 【始まり】
今から約2000年前のある夜、動物たちが眠る、粗末で薄汚れた家畜小屋で、神の幼な子イエスは誕生しました。絶望の中にある人々が待ち望んでいた救い主、メシアは、小さくか弱い幼な子として、この世に現れました。世界のほんの片隅の田舎町で起こった小さな出来事である一番初めのクリスマスは、こんな不思議な物語なのです。



2 【待ち望む人びと】
神様のみかたちに似せて作られた、男アダムと女エバは神様の楽園で幸せに暮らしていました。神様は二人にすべてを認めましたが、ただ一つだけ、園の中央にある“善悪の知識の実だけは決して食べてはならない”と堅く命じていました。しかし蛇にそそのかされたエバが、エバに言われてアダムが、知識の実を口にしてしまいます。言いつけに背いたことを知った神様は怒り、二人を楽園から追放しました。アダムとエバの子孫である人間は、その罪のため、永く大きな苦しみを受けることになりました。



3 【ナザレの村で】
ナザレというユダヤの田舎町に、ひとりのおとめが住んでいました。おとめの名前はマリアといいます。マリアは大工ヨセフのいいなずけです。あるとき、天使ガブリエルがナザレにつかわされました。ガブリエルはマリアに言いました。「おめでとう、マリア。あなたは女たちの中から選ばれました。神の子の母になるのです。あなたは男の子を産み、その子はイエスと呼ばれるでしょう。」マリアは言いました。「お言葉どおり、この身になりますように。」するとガブリエルはマリアから離れて行きました。マリアとヨセフは神様の言葉を信じて結婚し、新しい生活が始まりました。



スマートフォンで二次元コードを読み取ると、場面ごとの過去画像と歌詞をご覧いただけます。

キヤロルと朗読で綴るクリスマス物語



7 【神様からの贈りもの】
まもなくヨセフはマリアと幼な子イエスをナザレの家に連れて帰りました。その後、幼な子はたくさんの愛を受けて、たくましく育ちました。神様はいつもイエスを見守っていたのです。



4 【ベツレヘムの宿屋】
子どもがマリアのおなかにいるとき、ひとつ目の命令がくだされました。國中の人の数を数えるから、それぞれ生まれ故郷に帰れというのです。そこでヨセフとマリアは、連れだって、ナザレの町からベツレヘムにむかいました。ベツレヘムの町について、マリアは子どもの生まれるときが近いのを知りました。ところが、町は人であふれ、宿屋には、空いた部屋はひとつもありませんでした。宿屋の主人は仕方なく、ヨセフとマリアを家畜小屋に案内しました。二人が疲れた体を横たえた家畜小屋には一日のつらい仕事からようやく解放された動物たちが休んでいました。その夜おそらく、マリアは男の子を産みました。すやすやと眠る横顔を世界で一番はじめに見た動物たちは、心から男の子の誕生をお祝いしました。粗末な飼い葉桶をゆりかごとして、誰もが待ち望んでいた救い主は誕生したのです。

5 【野原の羊飼い】
近くの野原には、羊飼いたちがいました。夜のあいだ、羊の群れを見張る仕事をしていたのです。そこへ天の使いが現れて、神の光であたりが明るくなりました。羊飼いたちは怖くなってしまい、羊の群れと隠れて震えていました。天の使いはこう言いました。「おそれることはあります。私はうれしい知らせを運んできたのです。今日ベツレヘムでひとりの子どもが生まれました。その方こそが、あなたたちの救い主、キリストです。あなた方は、飼い葉桶の中に、布にくるまれた、幼な子を見るでしょう。それがしるします。」天の使いが夜空におおぜい現れ、神を讃えて歌いました。「天の高いところでは、神に栄光がありますように。地上に平和が満ち、すべての人間に、幸せが与えられますように。」言葉の通り、家畜小屋の飼い葉桶の中に寝かされた幼な子を見つけた羊飼いたちは、ひざまずいてあがめました。

6 【博士たちの発見】
東の国から、三人の博士もやってきました。空に不思議な明るい星が輝くのを見たからです。贈り物を持って、海を渡り、山を越えて、ようやくエルサレムにつくと、行く手の空に星が輝いて、道しるべになりました。星たちは博士たちを、ベツレヘムの、幼な子のいる家畜小屋まで導きました。三人の博士は、マリアに抱かれた幼な子を見て、とっておきの贈り物を並べ、ひざをおってあがめました。その後博士たちは、来た時とは別の道を通って、自分の国に帰って行きました。